

～生活の中に楽しみをみつけて頂くために～
「紙とエンピツちょうだい！」

特別養護老人ホームいちごの里 介護職員・伊賀絵里奈

社会福祉法人 あやめ会
特別養護老人ホーム いちごの里

<施設概要>

静岡県伊豆の国市北江間45-1



特別養護老人ホーム 入所者定員80名
短期入所生活介護 利用定員19名
通所介護 利用定員 通常35名 認知症対応型12名
地域包括支援センター
居宅介護支援事業所
(介護予防)認知症対応型共同生活介護事業所 利用定員9名
配食サービス
よいとこ教室(二次予防事業)

<取り組んだ課題>

S・E殿女性74歳 介護度5
平成12年に髄膜炎を発症し手術を行うが、以降も再発と手術を繰り返す。
入院中の転倒により右大腿部頸部を骨折し在宅へ戻ることが困難となり、老人保健施設の入所をへて
平成25年8月6日特別養護老人ホームいちごの里3階東ユニットへ入所となる。

後遺症において 高次脳機能障害 見当識障害 短期記憶力の低下 右半側空間無視

以前の施設では
車椅子にて生活され
日中は倦怠感を訴え臥床することが多くあった。
食事は他者のものに手をつけてしまうことがあった。
便意はなく便秘に気付かない。
会話の意思疎通は出来るがつつまの合わない会話が多い。

「日中の楽しみをみつける」



ご本人が出来ること、興味のあるものを探っていく。
ボランティアによる書道教室、喫茶店への参加を促す。
外出レク、ユニット体操への参加を促す。
話の合いそうな利用者様とテーブルを同じにしてみる。
職員は積極的に声をかけコミュニケーションをとるように努める。

いちごの里での生活が数ヵ月過ぎたころ…

1人の職員がS・E殿に名前を覚えてもらえたと話す。

<<私も名前を覚えてもらいたい!>>

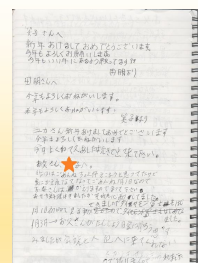
以前にも増してコミュニケーションをとるようになる

少しずつ名前を覚えてもらう職員が増え
S・E殿と様々な内容の会話ができるようになった

「ねえ紙と書くもの何か持ってない？」
「この健康食品頼みたいから電話番号メモしたいの」

ノートとエンピツがS・E殿のテーブルに置かれるようになる

その日あったこと
職員の名前や電話番号、
テレビのニュース
買い物メモ
ご家族にあててのメッセージ
職員との交換日記



ノートから取り入れられたS・E殿の新たな生活の楽しみ

いちごの里では施設1階ロビーにて
移動店舗のコンビニが11時から12時の間営業しています。

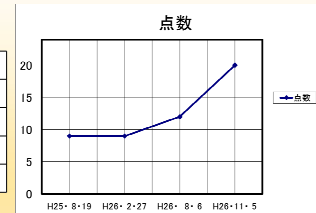
ご飯を残すことがあり、主食の摂取量にむらが見られたS・E殿は
ある日ノートに「納豆を買いに行きたい。」と書き込まれていた。
その後、職員とともにコンビニへ出かけ
納豆のりの佃煮 なめたけ瓶詰め を購入し、
食事時ご飯にかけて召し上がれるようになった。

S・E殿からは
「今日はコンビニある日よね」
「納豆もう無いから買わなくちゃ」と買い物に行きたい意欲がみられた。

《認知機能の状態に変化》

S・E殿長谷川式簡易知能評価スケール

評価年月日	点数	判定
H25・8・19	9	高度
H26・2・27	9	高度
H26・8・6	12	やや高度
H26・11・5	20	境界



<S・E殿の現在>

日中の倦怠感の訴えが無くなり臥床をしなくなった。

つじつまの合わない会話をすることがほとんどなくなり、
人物や出来事をしっかりと認識して話して下さるようになった。

便意や腹部の不快感を訴えてくださるようになった。

食事形態は入所時 主食粥 副食刻み食で提供していたが
現在常食にて提供。

車椅子の移動は介助だったが、
短い距離は自分で自乗する姿が見られるようになった。
現在は立位訓練の開始を予定している。

<職員の意識にも変化>

利用者様の小さなきっかけや変化を見逃さずに、アプローチするケアの大切さ、
目標に向かって協力して行うチームケアの重要性。
利用者様が入所する以前の生活に近づいていくこと、
その人らしさを取り戻していくことに介護者としての達成感と喜びを感じた。

<今後の課題と考察>

ノートとエンピツを用いたコミュニケーションから
S・E殿の求めるニーズ<生活の楽しみ>が見つかり、機能の向上につながった。
認知症状が改善されるとともに、帰宅願望が見られ始めた。
今後ご家族との外出、自宅への一時帰宅を目標にしたい
変化していくS・E殿の状態をよく観察し
いちごの里で安心して暮らしていただけるよう援助していきたい。

御静聴ありがとうございました

